

れき じん

となん歴史民だより Vol.72

Morioka tonan history and folklore museum

令和5年3月23日発行

発行 盛岡市都南歴史民俗資料館 盛岡市湯沢 1-1-38 Tel/Fax 019-638-7228



鎌田隆氏所蔵 雛人形

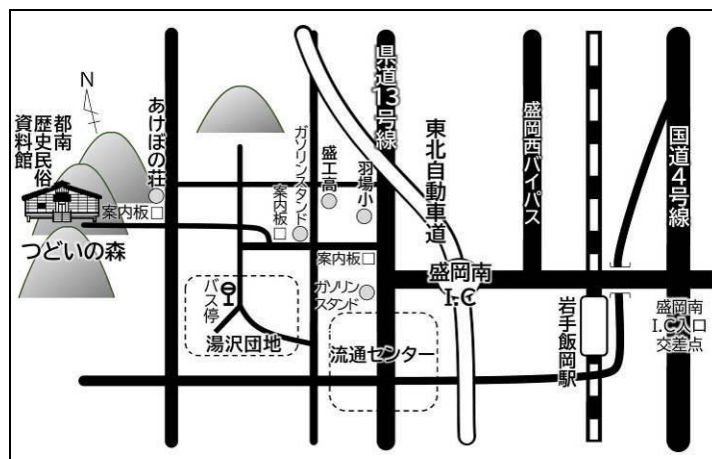
是非ご来館ください。お待ちしております。

— もくじ —

- 旧暦ひなまつり展のご案内
- 盛岡市都南歴史民俗資料館の利用について
- かけはしの会活動報告
- 資料は語る ⑫
- 盛岡市所在 指定・登録文化財紹介 ⑫
- 都南の史跡・文化財めぐり ⑫

MAP☆ACCESS

★「都南つどいの森」の案内板を目印にお越しください★



○利用案内

開館時間

午前9時から
午後4時まで

入館料

無料

休館日

月曜日
(祝祭日にあたる日
の場合は翌平日)、
年末年始



市民参加展 鎌田コレクション



第13回旧暦ひなまつり展開催のお知らせ

令和5年3月18日(土)～4月16日(日)

2月になると、各地でひな人形の展示が始まります。各家庭はもちろん、歴史ある建造物や博物館等の施設、各市町村の観光協会とタイアップして町家などで開催されるイベントなど、それぞれが趣向を凝らし、厳しい冬の終わりに華やぎを与えています。

盛岡市都南歴史民俗資料館では、旧暦の時期に合わせ、毎年3月からひなまつり展を開催しております。

盛岡市内在住の収集家鎌田隆氏の協力で始まったこの展示も、今回で13回目を迎えます。精巧な造りの本格的な雛

人形をはじめ、温かみのある木目込人形、木製や陶製、紙製の素朴な雛人形、花巻人形など、実に多種多様です。人々が子どもの健やかな成長を願い、春の到来を喜ぶ気持ちを形にしたこれらの人形は、その想いの強さを伝えてくれます。皆様の御来館をお待ちしております。



鎌田隆氏所蔵 雛人形

盛岡市都南歴史民俗資料館の利用について

見学

個人はもちろん、小学校・中学校や子ども会、老人クラブ、自治会などの団体見学を受け入れています。入館料は無料です。なお、団体の場合は、事前に申請が必要となります。

出前授業

当館の職員が小学校・中学校や公民館、老人センター等にお伺いし、昔の生活の様子や盛岡市・都南地域の史跡・文化財についてパワーポイントを使って講話を行います。必要があれば、黒電話や行灯など昔の道具を持参します。

資料の貸し出し

小学校・中学校や子ども会、老人クラブ、自治会などの団体に資料の貸し出しを行っています。貸出の資料は、農耕具、生活用具、衣類・履物類、昔の道具などのうち当館が許可する資料となります。(※資料の状態等によっては貸し出しできかねる場合もございます。御了承ください)

調査する

学校の自由研究はもちろん、生涯学習にも御利用いただけます。資料館の事務室に配架されている図書はどなたでも閲覧できます。また、貸し出しも行っていきます。一般の方は1か月間が貸し出し期限です。さらに、古文書類を閲覧することができます。どのような資料があるか、内容については事前にお問い合わせください。



行灯

お問い合わせ先

盛岡市都南歴史民俗資料館

電話・F a x

019-638-7228

令和4年度「となん・かけはしの会」活動報告

当館を事務局とする「となん・かけはしの会」の令和4年度の活動が終了しました。本年度は新会員5人を含む計33人の会員で活動を行いました。この一年間の活動を簡単に紹介します。

●史跡・文化財巡り

令和4年10月20日（木）に、会員17人が参加して、花巻市・北上市の史跡・文化財を巡りました。主な見学地は、胡四王神社、花巻市博物館、熊野神社・成島毘沙門堂、丹内山神社、上口内要害です。個人ではなかなか行く機会のない神社等も見学できて、会員の皆様はとても満足そうでした。



上口内要害で記念撮影

●歴史探訪ウォーキング

令和4年5月8日（日）「山岸界限と永福寺の宝物展」

令和4年10月1日（土）「上田・材木町界限」

とても人気がある活動で、2回のウォーキングで計32人の会員が参加しました。個人ではめったに拝観できない秘仏や宝物等を拝観することができました。正覚寺では、住職の講話をお聴きするなど、とても有意義な一日を過ごすことができました。



宝珠盛岡山永福寺

●茶話会

都南公民館で6回の茶話会を開催しました。本年度の演題と講師は下記のとおりです。

第1回茶話会「昭和20年の盛岡・都南」講師 盛岡タイムス社取締役主筆 鎌田大介氏

第2回茶話会「新渡戸稲造と新札の3人」講師 新渡戸稲造基金理事長 藤井茂氏

第3回茶話会「花巻市・北上市の史跡・文化財」講師 都南歴史民俗資料館 作山文康館長

第4回茶話会「古代の北東北と志波城」講師 元都南歴史民俗資料館館長 玉川英喜氏

第5回茶話会「中世南部氏の謎にせまる」講師 となん・かけはしの会会長 外川靖博氏

第6回茶話会「入部行列と文政4年の政変」講師 遠野市市史編纂委員 菊池秀男氏

●古文書サークル

となん・かけはしの会の有志15人が会員となって、年間10回の研修会を行いました。盛岡市都南歴史民俗資料館所蔵の「御領分郷尽」や「諸願書案詞」などの古文書も解説しました。会員からは「だいぶ古文書を読むことができるようになった。」と好評でした。

令和5年度 となん・かけはしの会 会員募集(※要年会費)

歴史に興味のある方はぜひご入会してみたいでしょうか。

都南地域在住の方はもちろん、都南地域以外にお住まいの会員の方も多数いらっしゃいますので、お気軽にご連絡ください。



【火熨斗（ひのし）】（当館所蔵）

現在の電気アイロンに代わる道具で、その歴史は古く、今から 1,000年以上前の平安時代から昭和初期（昭和30年代）頃まで使われてきました。

裁縫の仕上げや、洗濯物のしわを伸ばすなど広く用いられてきました。また、平安時代には貴族のふとんを温める道具としても使用されていました。

明治期になるとイギリスから「炭火アイロン」（西洋火熨斗）が伝わり、普及したため、火熨斗は徐々に使用されなくなりました。

銅製や真鍮製で片手鍋のような形をしており、手に持つと適度な重さがあります。金属の器の中に炭火を入れて熱し、柄を持って、平らで滑らかになっている器の底の部分の布地の上にあて、温度に注意しながら、その器の重みと、熱によって、しわを押し伸ばすようにして使いました。

参考文献『日本大百科事典』小学館（1989年）

盛岡市指定史跡



鍛冶町一里塚跡

一里塚は、江戸の日本橋を起点として大きな街道の両側に一里（3.92km）毎に設置された塚です。多くの塚の上には榎（えのき）や松を植えて旅人の目印にしました。

盛岡城下鍛冶町（現在の紺屋町）は奥州道中筋の宿駅です。慶長期（1596～1615）の築造とみられる鍛冶町一里塚は、盛岡藩領内諸道の里程を計測する起点で、交通史跡として重要です。この一里塚には、もと石の標杭がありましたが、文化（1804～）初年頃に撤去されたと伝えられています。

鍛冶町一里塚から南は、川久保一里塚、見前一里塚、間野々一里塚と続きます。また、北は、上田一里塚、小野松一里塚、笹平一里塚、渋民一里塚と続きます。

参考文献等：盛岡市教育委員会『もりおかの文化財』（2008）

都南の史跡・文化財めぐり② 乙部館跡

斯波氏の家臣、乙部兵庫の居館でした。天正十六年（一五八八）に乙部治部義説の代に主家から離反し、中野修理康実に従い、南部信直に仕え、斯波詮直没落後は二千百石を賜りました。

その後、南部家の家臣である富士右衛門の居城となりました。天正二十年（一五九二）に乙部館は破却されました。『諸城破却書上』には、「乙部平城破 富士右衛門持分」とあります。

この館は、乙部川の断崖に接した台地に築かれた平山城であり、南側を乙部川が流れ、主郭部は十五〜十八メートルの断崖となっています。また、東西に三つの郭に分かれており、それぞれが大きな空堀で区切られており、地の利を利用した要害堅固の館でした。

現在、乙部館跡は宅地や果樹園となっていますが、今でも空堀跡が明瞭に残り、説明板が設けられています。



主郭の土塁 高さ 15~18m



規模の大きな空堀